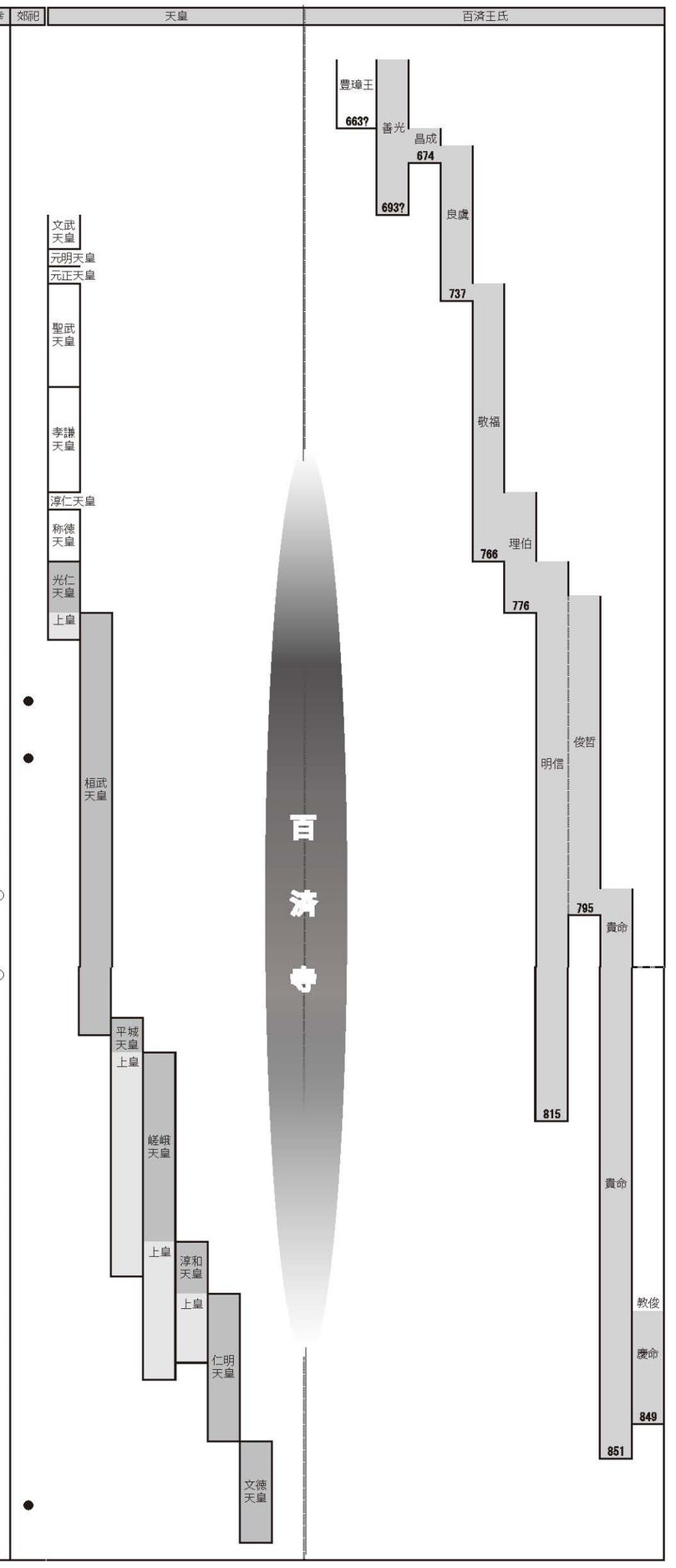
百済寺跡と百済王氏関連年表

年号	事項	行幸	郊祀
538年(または552年)	公式に日本に仏教が伝来する。		
崇峻天皇元年(588)	飛鳥寺(奈良県)建立始まる・百済から寺工・露盤博士・瓦博士が渡来		
皇極天皇2年(643)	百済国義慈王の王子、豊璋(翹岐)が弟の禅光(塞上)らと共に倭に派遣される。		
斉明天皇6年(660)	百済が唐と新羅の連合軍に滅ぼされる。		
天智天皇元年(662)	豊璋、百済復興のため帰国。		
天智天皇2年(663)	倭・百済軍、唐・新羅軍に大敗(白村江の戦い)。		
天智天皇3年(664)	百済王禅広ら、難波に住まわされる。		
天武天皇3年(674)	百済王昌成薨ず。		
朱鳥元年(686)	天武天皇薨去に伴い、百済王良虞、百済王善光に代わって誅る。		
持統天皇5年(691)	百済王余禅広(最後の余姓)		
持統天皇7年(693)	百済王禅広、正広参(大宝令制の三位)を授けられる。		
大宝元年(701)	大宝律令制定		
大宝3年(703)	従五位上百済王良虞(禅広の孫)、伊予守に任じられる。		
和銅3年(710)	平城京遷都		
天平9年(737)	散位従四位下百済王良虞卒す。		
天平10年(738)	百済王敬福、陸奥介に任じられる。		
天平12年(740)	聖武天皇難波に行幸。2月　百済王ら風俗楽を奏す。		
天平15年(743)	百済王良虞の子、百済王敬福が陸奥守に任じられる。		
天平16年(744)	百済王敬福、上総守に任じられる。		
天平18年(746)	百済王敬福、陸奥守再任		
天平21年 天平感宝元年(749)	百済王敬福、任地の陸奥国で黄金を産出、聖武天皇に東大寺大仏のメッキ用に金900両を献上、7階級特進して従三位に。		
天平感宝2年(750)	百済王敬福、宮内卿に任じられる。 この頃、百済王敬福に河内守を加えられる。 この頃、百済王氏は本拠を摂津国百済郡(難波)から河内国交野郡に移したとされる。		
天平勝宝4年(752)	東大寺大仏開眼・百済王敬福、常陸守に任じられる。		
天平宝字4年(760)	このころ、百済王敬福の孫、百済王明信が藤原継縄の妻となる。		
天平宝字8年(764)	恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱・百済王敬福、押勝追討のため出兵。		
天平神護元年(765)	称徳天皇、河内国弓削寺に行幸。百済王敬福「本国舞」を披露。		
天平神護2年(766)	百済王敬福、69歳で薨ず。		
宝亀元年(770)	称徳天皇崩御。道鏡失脚。		
宝亀2年(771)	光仁天皇、交野を経て難波に行幸。2月	○	
宝亀7年(776)	百済王理伯卒す。		
天応元年(781)	桓武天皇即位。光仁上皇崩御。		
延暦2年(783)	桓武天皇、交野行幸、鷹を放ち遊猟。10月	○	
	百済寺に近江・播磨2国の正税各五千束を施入す。		
延暦3年(784)	平城京・難波京を廃し、長岡京遷都		
延暦4年(785)	桓武天皇、交野柏原に郊祀壇を築き、天神をまつる。11月		●
延暦6年(787)	桓武天皇、交野に行幸し、藤原継縄の別業を行宮とする。10月　継縄、百済王氏を率いて行宮で音楽を奏させ、百済王玄鏡に正五位下、百済王元真・善貞・忠信・明本に従五位下を授く。11月	○	
	天神を交野にまつる。11月		●
延暦8年(789)	皇太后高野新笠薨ず。		
延暦9年(790)	桓武天皇、百済王玄鏡を従四位下、仁貞を正五位上、従五位下に叙し、「百済王は朕の外戚なり」と詔を下す。		
延暦10年(791)	交野に行幸。鷹を放ちて遊猟す。右大臣の別業を以って行宮と為す。10月	○	
延暦11年(792)	交野遊猟。9月	○	
延暦12年(793)	銭三十万及長門、阿波両国稲各一千束を特に河内国交野郡百済寺に施入す。藤原継縄、衣を献上。交野遊猟。11月	○	
延暦13年(794)	平安京遷都・藤原継縄ら『続日本紀』の一部を撰上。交野遊猟。9月	○	
延暦14年(795)	交野遊猟。3月　交野に行幸、右大臣藤原継縄の別業を以って行宮と為す。10月 百済王俊哲卒す。	○○	
延暦15年(796)	藤原継縄、70歳で薨ず。		
延暦16年(797)	百済王氏の課役雑徭を永く免除する。		
延暦17年(798)	河内国稲二千束を百済寺に施入す。		
延暦18年(799)	交野行幸。2月　交野遊猟。10月	○○	
延暦19年(800)	交野行幸。10月	○	
延暦21年(802)	交野行幸。10月　桓武の交野行幸、最後の記事。	○	
大同元年(806)	桓武天皇、69歳で崩御		
大同3年(808)	交野雄徳山（男山）への埋葬禁止。		
弘仁3年(812)	嵯峨天皇、交野遊猟。2月　以降承和4年(837)まで行幸・遊猟が頻繁に。	○	
弘仁4年(813)	交野遊猟。2月　山崎駅を行宮とする。	○	
弘仁5年(814)	幸交野。佐為及百済寺に綿各一百屯を施入す。	○	
弘仁6年(815)	交野行幸。2月　散位従二位百済王明信薨ず。	○	
弘仁7年(816)	幸于交野。佐為、百済、粟倉僧尼三寺、各綿一百屯を施捨す。	○	
弘仁8年(817)	幸交野。佐為、百済、粟倉三寺に各綿一百斤を施入す。	○	
弘仁年9年(818)	交野行幸。10月	○	
弘仁10年(819)	交野行幸。2月	○	
弘仁11年(820)	交野行幸。2月	○	
弘仁12年(821)	交野行幸。10月	○	
弘仁13年(822)	交野遊猟。10月	○	
天長元年(824)	平城天皇崩御。		
天長2年(825)	嵯峨上皇、交野遊猟。10月	○	
承和3年(836)	嵯峨上皇、交野遊猟。2月	○	
承和4年(837)	嵯峨上皇、交野遊猟。10月	○	
承和7年(840)	淳和上皇崩御。		
承和9年(842)	嵯峨上皇崩御。		
承和11年(844)	仁明天皇、交野へ行幸。2月	○	
嘉祥2年(849)	嵯峨天皇の后妃、百済王慶命薨じ、従一位を贈られる。百済王氏一族では最高位。		
嘉祥3年(850)	仁明天皇崩御。		
仁寿元年(851)	嵯峨天皇の女御、百濟王貴命卒し、散事従四位下を贈られる。		
斉衡2年(855)	従三位百済王勝義薨ず。（従五位下玄風の子）（前略）（承和）六年二月叙従三位。年老致仕、閑居河内国讃良郡山畔。頗使鷹犬、以為養痾之資。卒時年七十六。		
斉衡3年(856)	文徳天皇、交野の柏原野で郊祀壇を築き、天神をまつる。これ以後、交野での祭祀は行われなくなる。		●
天安2年(858)	文徳天皇崩御。		
元慶3年(879)	外従五位下右馬大允百済王教隆、従五位下を授く。		



天慶2年（939）	平将門の乱、百済王貞運、上総介→武蔵守	「類聚符宣抄　第八　任符(不待本任放還賜任符)」
天元5年(982)以前	諸院　禁野　「交野　以百済王 為検校」	『西宮記』
応徳3年(1086)	「御交野禁野司百済氏人等申文」	『爲房卿記』紙背文書
建仁年2年(1201)	10月 土御門天皇、交野行幸	『明月記』
承元2年(1208)	9月7日、後鳥羽上皇交野御堂に供養	『百錬抄』
大永元年(1521)	後柏原天皇即位と百済王遠倫の叙爵	『除目執筆記』
天文24年(1555)	「百済寺御宮田」	『牧一宮神田帳』

延宝7年(1679)	百済王の宮あり。広き松原有。伽藍の旧跡有。百済王子来拝聖徳云々	『河内鑑名所記』
延宝9年(1679)	百濟國王、牛頭天王相殿一社	「延宝九年寺社改帳」
享保19年(1734)	百濟廢寺　在中宮村。百濟王祠廟域内礎石尚存。延暦二年冬十月、帝遊猟施百濟寺、近江、播磨二国の正税、五千束即此。	『日本輿地通史 畿内部 巻第三十六 河内國之十一』
寛政13年(1801)	百濟王靈社　中宮村にあり。此所の生土神とす。例祭、九月朔日、ここに、むかし、百濟寺というあり、今、廃して古礎存す。	『河内名所圖會』
明治17年(1884)	行在所廢趾　舊跡不詳ト雖モ本村ニ二所旧跡アリ　一ハ西南方中宮〻〻神社東隣ニ東西三拾三間餘　南北壱丁貳拾間餘ノ林地アリ（現今官林ノ間數ニシテ往古廣大ノ殘跡カ）中ニ拾有餘ノ礎石ヲ遺ス(方四尺或ハ五尺表面ノミ鑿シテ凸形ヲナス)實ニ高潔ノ高潔ノ地ナリ	川江直種ほか写『大阪府地誌　河内國　第十六編　交野郡』
明治35年(1902)	交野行宮趾　延暦の昔、桓武天皇の屢交野に狩りし給ひし事正史に載せ、山田村の中宮は其の行在所のありし處といふ、然れども其の趾と稱するもの二あり一は邑の西南百濟王神社の東に隣し一町許の官林の裡方四尺五尺の礎石累々として拾有餘箇を存し地頗高潔に、	『大阪府誌』
大正11年(1922)	百濟寺の址は社の東北五町にあり、(中略)百濟王の宅址は本郷部落其れなり。	『大阪府全誌』
昭和3年(1928)	百濟寺址　百濟王神社境内東方なる林中に礎石を残せるものこれなるべし。	『大阪府史蹟名勝天然記念物 第三冊』
昭和6年(1931)	百濟寺址　大字中宮なる百濟王神社々殿の南東なる礎石のあるところがそれで、云々	『北河内郡史蹟史話』

境内正面石造鳥居(正徳3年(1713))